

生命のゆりかご～干潟の重要性

川が海に出逢う場所

最近では、内湾の海は「港」に、川の下流部も「護岸整備」がなされている場所が多くなっています。そのため、干潟の自然を留めている場所はとても少なくなってしまうしました。

しかし本来、内湾や入り江にそそぐ川の河口には、上流から運ばれた土砂がゆるやかに広がって海底に堆積し、なだらかな傾斜をもつ遠浅の海をつくります。「干潟」とは、この遠浅の海の「干潮のときに水がひくと、砂や泥の海底が露出する場所」のこと。水はけは悪く、干潮時でも水が保たれていることが特徴で、この水の存在が多くて生物の命を支えています。

そして、「干潟」へは常に川から土砂が運ばれるため、長い時間をかけて海は自然に埋まり、海流による浸食がなければだいに陸へと移行をします。つまり、干潟は静かに環境が変わっている「移行地帯」なのです。そのため、場所によって塩分濃度や水につかる時間、砂泥の粒の大小、潮の強さなど、多種多様な環境があります。このように連続して環境が少しずつ変わる場所は、ひとつの生物が大部分の場所を占領することがなく、異なる環境を利用して多様な生物がすみつきます。

干潟の海は、生物の種も量も豊富な“生命のにぎわう場所”なのです。

川と海から「ごちそう」がやってくる 主役は小さな生きものたち

干潟に立つと、広くなだらかな砂浜が見えるだけで、一見生きものの姿は見えません。ところがしばらくじっ

■塩性湿地

海水につかる時間が少なく、川の水や雨水で塩分濃度が低い地域には、ヨシ原ができる。埋め立てが進み、塩性湿地特有の生物は絶滅の危機に瀕しているものが多い。



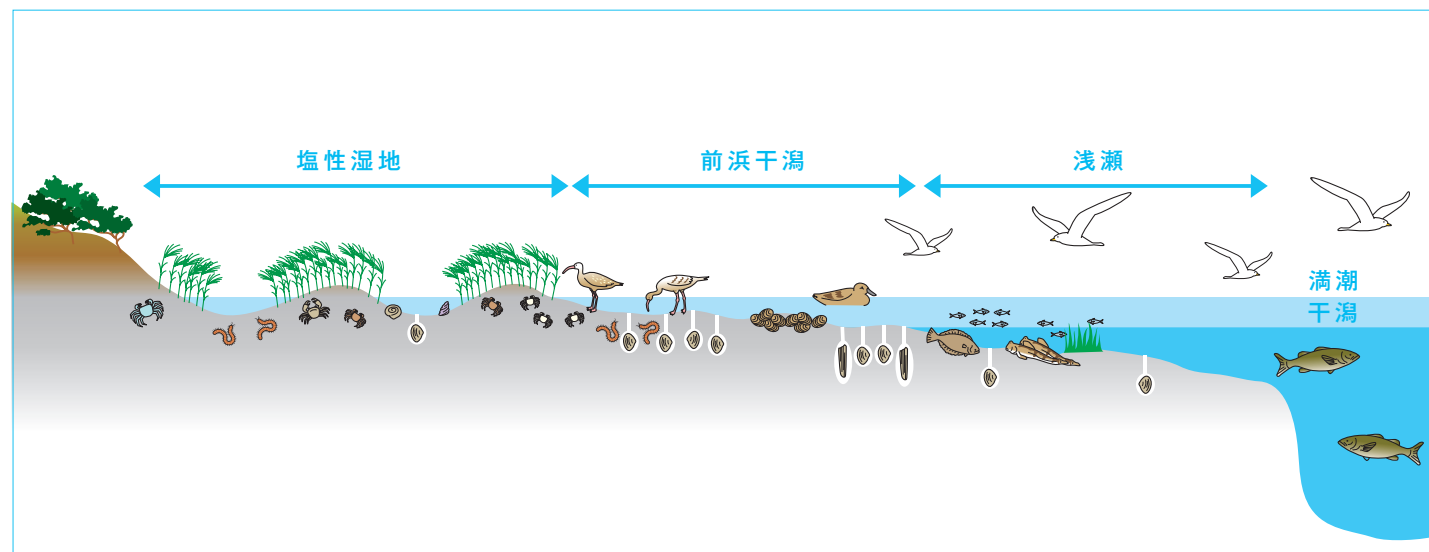
■砂干潟

川から供給される土砂の成分や波のあたり方などにより、同じ干潟でも様子はさまざま。「砂干潟」はさらさらとした砂でできた、水はけのいい干潟だ。



■泥干潟

粘土のような細かい泥の粒子でできている、水はけがとても悪い干潟。粘り気があり、歩くとずぶずぶと足をとられ、底なし沼のように出られなることもあるので要注意。



としていると砂のなかから小さなカニがたくさん現れたり、砂を掘ると二枚貝やゴカイなどの生物がごっそりいたり、浅瀬をのぞけばヤドカリや巻貝がせわしく動いていたり、藻場にはエビや小魚がひそんでいたり…。

干潟の主役は、そのような数センチ以下の小さな生物です。それらの生きものが、塩分や水分量など、それぞれの生息に適した場所を選び、多種との棲み分けを行って暮らしています。

では、なぜそれほど多くの生物が干潟で生息できるのでしょうか。そのいちばんの要因は、餌の豊富さです。

海の生態系の基盤をなす植物プランクトンは、浅く穏やかな海で太陽の光を十分に浴び、川から運ばれるリンやチッソなどの栄養塩を利用して増殖をします。するとそれらを餌とする動物プランクトンが増えます。さらに潮の干満により、海の表層を漂うプランクトンが満潮とともに干潟に入ってきます。こうして小さな生物の餌となる、川と海の栄養が常に補給されるのが干潟なのです。

捕食者の少ない“楽園”

干潮時に干上がり、満潮でも水深の浅い干潟には、スズキやクロダイなどの肉食魚やイルカやクジラなどの海洋哺乳類が入ってくることができません。つまり、小さな生きものにとって、干潟やそこに続く浅瀬の海は、餌



ゴカイや二枚貝、小さなカニや魚…。餌となる生きものが多い干潟は渡り鳥にとっては大切な中継地だ。メダイチドリ 撮影：芝原達也（谷津干潟自然観察センター）

が多いだけでなく、捕食者の少ない安全な場所なのです。そのため、貝類やゴカイ類など、干潟を一生の住処とする生物の他、カレイやボラなどのように干潟で稚魚の時代を過ごす魚もいます。

また、生物が豊富な干潟には、餌を求めて多くの鳥も集まります。カワウなどの留鳥（年間を通して同じ地域に生息する）の他、渡りの中継地として利用する種や繁殖地として利用する鳥もあり、干潟では鳥の種類で季節を感じることも少なくありません。

このように、大型魚や鳥にもつながる多くの命を育むことから、干潟は「生命のゆりかご」と呼ばれ、貴重な自然に位置づけられています。

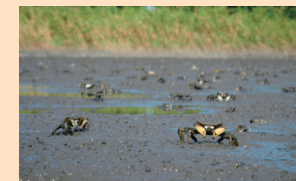
少しずつ違う環境で生きる多様な生物

ヨシ原と泥干潟（塩性湿地）

水路があり、塩分の少ない地域。陸と海双方で活動する（半陸性）カニや、泥干潟に適応したカニや巻貝などが見られる。



アシハラガニ



ヤマトオサガニ

水はけのよい砂干潟（前浜干潟：陸側）

満潮時は砂のなかに潜ったり、海底でじっとして、干潮になると干潟面で餌を食べ、活動をはじめ生物が多い。



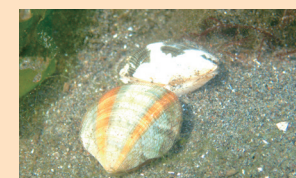
アシハラガニ



ヤマトオサガニ

タイドプールがある砂干潟（前浜干潟：海側）

海水とともに餌を吸い込んで食べる二枚貝など、水中で活動する生物が多く見られる。



アサリ



イボキサゴ